

# タケダトマト群調査写真

竹田 順一

大阪府貝塚市エスペックミック試験農場タケダミニトマト 2019.6.



エスペックミック試験農場タケダミニトマト、1果房の果実の写真 2019.6.



エスベックミック試験農場タケダミニトマト、1果房の花の写真  
試験栽培トマト約 1000 品種の 1 果房の花芽は 200~500 前後。2019.7.25



京都大学研究会各社の、タケダトマトを視察。2019. 7. 25.



エスペックミック試験農場タケダミニトマト 2019.8.21.









## 【タケダミニトマトの多品種と比べた時の優位性】

①. 1果房の花の数300~500前後、自家和合性(自家受粉)、蜂やホルモン剤での受粉不要、単位結果(自家和合性)だと高温や低温でも受粉する。

2019年の6月からの低日照量、その後の高温・多湿のトマトにとってはもっとも条件の悪い今年の結果状況(写真)から。今年のような気象環境、高温・多湿により従来のミニトマトは花が不稔か落花してほとんど結果しない。

②. 完熟で収穫でき収穫後冬季で約30日、夏季で20日くらい日持ちする。

従来のミニトマトの各品種は完熟では収穫できない、理由は完熟すると実割れをするので完熟前に実を選んで収穫するので手間がかかる、日持ちは7日前後である。

③. 従来のトマトの栽培管理は水を切ったの栽培。水をかけすぎると茎が肥大して花も少なく結果する実も少ない、実割れがする。

タケダ育種ミニトマト群は水をたくさんかけることによって多くの花が付き結果しても実割れをほとんどしない品種。雨避けなしに簡易的な雨避けでの栽培が可能。

④. タケダ育種ミニトマト群は1果房の花の数300~500前後(通常ミニトマトは20前後)、ミニトマトの価格の高い時期に集中して収穫して、計画生産出荷計画ができる。

⑤. トマト苗の生産:種苗価格の比較。

韓国:種苗費10アール当たり2300本、約44円/1本。(韓国は物価が日本の3割くらいですから、日本の価格に換算すると約150円/1本。)

日本(従来のミニトマト):種苗費10アール当たり2300本、約160円~180円/1本。(トマト苗の生産原価は100円/1本前後。)

タケダ育種ミニトマト群:従来のトマトは線虫や青枯れ病対策のためにカボチャやヘチマなどを台木にして接ぎ木しているが、タケダ育種ミニトマト群は線虫や青枯れ病に強、ほとんど掛らない品種を選抜育種。接ぎ木しない自根苗での生産。

種苗費10アール当たり2300本、約20円/1本以下で苗を生産できる。

(別紙資料: H290426 2 熊本大学理学部澤研究室、研究計画2019.8.8)

⑥. トマト黄化葉巻病(Tomato yellow leaf curl virus:TYLCV)

トマト黄化萎縮病(Tobacco leaf curl virus:TbLCV)

イスラエル発のウイルス感染症ですが、まだ対策品種や決定的な対策法はできていませんが、タケダ育種ミニトマト群は対策品種を選抜。

(別紙資料: トマト黄化葉巻病耐性品種の選抜.2019.8.8)

台湾はじめ東南アジアはトマト黄化葉巻病とトマト黄化萎縮病の被害が甚大で、露地での野外の栽培はほぼ難しく、閉鎖した温室栽培でもウイルスを媒介する、温室タバココナジラムの防除に大変な経費を使っている。

⑦. 人口栽培培地。

トマトの栽培は土耕栽培では栽培する条件が土質、圃場の場所や形状、季節によって大きく変わる、人工培地での栽培によって一定の条件を創ることで、どこでも基本的な栽培マニュアルでの栽培ができ、AIやIoTでの植物工場としての栽培管理ができる。(財産業総合研

研究所谷川副所長との共同研究)

写真のエスペックミック試験農場の人工栽培培地は、水や電機の省エネ施設で、施設設置経費も低価格。

現在、クラレ、エスペックミック、フジイシード、クボタを中心として京大研究会としてタケダイチゴ、トマトで人工培地での試験を開始。